

阿見町温水プール基本構想・基本計画について

1. 阿見町温水プール基本構想・基本計画について

町内各小中学校のプールが老朽化している状況を踏まえ、水泳授業を取り巻く様々な課題の解決を図るため、水泳授業の共同利用と町民による一般利用の両立を目指した新たな温水プールの整備について「阿見町温水プール基本構想」及び「阿見町温水プール基本計画」としてまとめました。

整備予定地は、「阿見中学校・学校区児童館跡地」(阿見町中央一丁目)といたします。

2. 基本設計業務の公募型プロポーザルの実施について

令和 7 年度は基本設計業務の実施を予定しています。

設計段階の課題として、①建築コストの抑制、②維持管理コストの抑制(環境性能の向上)、③満足度の高い設計が挙げられ、これらの課題解決について、技術力の高い事業者提案を求めるものです。

【お問い合わせ先】

阿見町 町長公室 政策企画課

担当 : 高橋、小松澤、村山

TEL : 029 (888) 1111 内線 : 291

FAX : 029 (887) 9560

阿見町温水プール基本構想 概要版（一部抜粋）

1 基本構想策定の背景と目的

阿見町(以下、「本町」という。)の学校プールは、いずれも築40年～55年程度経過しており、令和6年度時点で、プールが利用できるのは9校のうち3校のみとなっている。

しかしながら、各校のプールを利用可能とするため、改修・更新した場合には多額の費用が掛かり、その後の維持管理も必要となる。

そうした状況の中で、水泳授業の安全性や継続性の確保、学校プールの維持管理や老朽化対策等の課題解決を図るため、学校水泳授業での共同利用と町民による一般利用の両立を目指した新たな温水プール施設(以下、「本施設」という。)の整備に向け、施設の基本的事項や計画候補地の選定等について検討し、基本構想として取りまとめた。

2 計画地の比較検討及び選定

本施設の整備候補地(右図参照)を、表6に示す評価項目で比較したところ、すべての候補地において、敷地条件及び道路からのアプローチ性と交通アクセスの観点で優位な評価結果となった。

学校プール施設としての送迎のしやすさは、いずれも片道20分以内であるが、阿見中学校・学校区児童館跡地は、各校からの平均距離・時間ともに最も短く、阿見中学校及び阿見小学校は徒歩で利用できるため、バスの手配が不要となる。

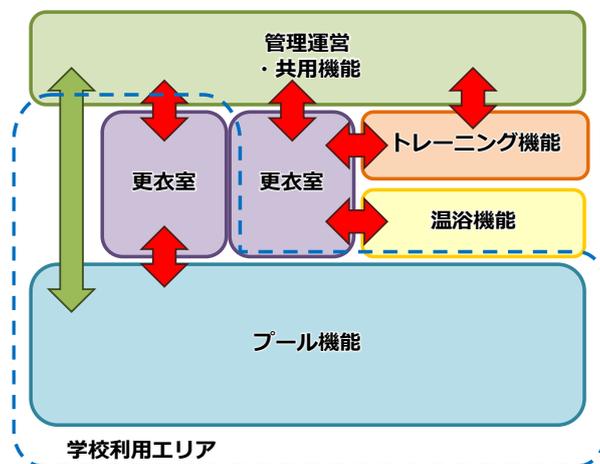
以上を踏まえ、本事業の主目的である学校利用のしやすさ、立地による利便性、整備コスト等の観点から、最も評価が高かった「阿見中学校・学校区児童館跡地」が最も適していると判断した。



3 施設計画に関する考え方

導入機能のゾーニング及び利用者動線のイメージを右図のとおり整理した。学校授業実施時に、プールエリアを一般利用者が利用できない場合にも、温浴エリアやトレーニングエリアを利用できるよう、更衣室は別途設ける計画とする。その上で、学校授業実施時に児童・生徒と一般利用者の動線が混合しないよう配慮する。

利用動線： 学校利用エリア：



4 事業規模の試算

他市町村の事例を元に、面積や物価高騰の影響を踏まえておよその事業規模を算出した。なお、具体的な概算事業費については基本設計で算出を行う。

項目	事業費（税込）	備考
設計・工事監理費	約 1.5～2 億円	
施設工事費小計	約 16.5～20 億円	
プール工事費	約 15～17 億円	延床面積 2,000 m ² 以内
外構工事費	約 1～2 億円	
備品費	約 0.5～1 億円	
合計	約 18～22 億円	

5 事業手法の検討

「町側の意向反映のしやすさ」や「事業着手までの早さ」の観点で優位であるという点から、本事業では従来方式の採用を基本として検討を進める。なお、従来方式で不利となる運営者のノウハウを生かした施設設計に関しては、事前に運営事業者等への意見聴取を行うなどにより解決することが可能と考えられる。

6 事業スケジュールと今後の課題

(1) 事業スケジュール

事業スケジュールは以下のとおり整理した。ただし、あくまで現時点での想定であり、今後変更する可能性もある。



阿見町温水プール基本計画 (一部抜粋)

設計段階に進むにあたって必要な条件等を整理し、基本計画として整理した。

(1) 敷地レイアウト

アクセスの分かりやすさや敷地形状等から総合的に判断し、下図の通りとする。



- ◆ 隣接する公園や阿見中学校の既存プールの解体後の跡地利用を含め、将来は防災公園としての位置づけを予定しております。
なお、整備にあつては国の防災安全交付金(都市公園)の活用を想定しております。
- ◆ 温水プール施設は、災害時にはプールの水の生活用水への活用、温浴施設の開放など町全体の防災機能が飛躍的に高まる施設です。

(2) 諸室面積

導入機能に基づいた諸室について、それぞれ必要十分な面積の計上を行った。なお、詳細は基本設計において検討し、各面積の内訳については誤差が生じる可能性がある。

諸室		面積の目安
プール室	プール(25m プール、7レーン)	400~420 m ²
	プールサイド等	390~420 m ² (学校授業 150 人想定)
	小計	790~840 m ²
更衣室・温浴施設	更衣室・トイレ等	160~200 m ² (男女各75人想定、男女各 80~100 m ²)
	浴室	80~120 m ² (10 人想定、男女各 40~60 m ²)
	風呂脱衣所	80~90 m ² (10 人想定、男女各 40~45 m ²)
	通路等	最小限とする(30 m ² と仮定)
	バリアフリー更衣室	40 m ² 程度
	小計(男女計)	390~480 m ²
着衣エリア	監視室・事務室	70~100 m ²
	談話室	40~50 m ² (15 人想定)
	トレーニング室	60~100 m ²
	ロビー・エントランス・トイレ・風除室等	150~200 m ²
	小計	320~450 m ²
機械室・倉庫		200 m ² 程度
合計		2,000 m ² 以内

温水プール基本設計業務の公募型プロポーザルの実施について

令和 7 年度は基本設計業務の実施を予定しています。

設計段階の課題として、①建築コストの抑制、②維持管理コストの抑制(環境性能の向上)、③満足度の高い設計が挙げられ、これらの課題解決について、技術力の高い事業者提案を求めます。

<審査項目>

- ① 環境性能に関する提案
- ② 建築コスト抑制に関する提案
- ③ 満足度を高める施設設計の工夫
- ④ 実績・体制
- ⑤ 設計業務の見積額

<スケジュール>

- ・ 5月30日(金) 町公式 web サイトに公表
- ・ 6月13日(金) 参加表明書〆切
- ・ 7月10日(木) プレゼンテーション
- ・ 7月14日(月) 結果の通知